校異源氏物語・藤はかま

内侍のかみの御宮つかへのことをたれも　くそゝのかし給もいかならむおやと思ひきこゆる人の御心たにうちとくましき世なりけれはましてさやうのましらひにつけて心より外にひんなき事もあらは中宮も女御もかた　くにつけて心をき給はゝはしたなからむに我身はかくはかなきさまにていつ方にもふかく思とゝめられたてまつれるほともなくあさきおほえにてたゝならすおもひいひいかて人わらへなるさまにみきゝなさむとうけひ給人〻もおほくとかくにつけてやすからぬことのみありぬへきをものおほししるましきほとにしあらねはさま

　くにおもほしみたれ人しれす物なけかしさりとてかゝる有さまもあしき事はなけれとこのおとゝの御心はへのむつかしく心つきなきもいかなるつゐてにかはもてはなれて人のをしはかるへかめるすちを心きよくもありはつへきまことのちゝおとゝも此殿のおほさむ所はゝかり給てうけはりてとりはなちけさやき給へきことにもあらねは猶とてもかくてもみくるしうかけ　くしきありさまにて心をなやまし人にもてさはかるへきみなめりと中　くこのおや尋きこえ給て後はことにはゝかり給けしきもなきおとゝの君の御もてなしをとりくはへつゝ人しれすなんなけかしかりけるおもふことをまほならすともかたはしにてもうちかすめつへきをなんおやもおはせすいつ方も　くいとはつかしけにいとうるはしき御さまともにはなに事をかはさなむかくなんともきこえわき給はむよの人ににぬ身の有さまをうちなかめつゝ夕くれの空のあはれけなるけしきをはしちかうてみいたし給へるさまいとおかしうすきにひ色の御そなつかしきほとにやつれて例にかはりたるいろあひにしもかたちはいとはなやかにもてはやされておはするを御まへなる人〻はうちゑみてみたてまつるに宰相の中将おなし色のいますこしこまやかなるなをしすかたにてえいまき給へるすかたしもまたいとなまめかしくきよらにておはしたりはしめよりものまめやかに心よせきこえ給へはもてはなれてうと　くしきさまにはもてなし給はさりしならひに今あらさりけりとてこよなくかはらむもうたてあれはなをみすにき丁そへたる御たいめむはひとつてならてありけりとのゝ御せうそこにてうちよりおほせことあるさまやかてこの君のうけたまはり給へるなりけり御返おほとかなる物からいと

めやすくきこえなし給けはひのらう　くしくなつかしきにつけてもかの野わきのあしたの御あさかほは心にかゝりてこひしきをうたてあるすちにおもひしきゝあきらめてのちはなをもあらぬ心ちそひてこの宮つかひをおほかたにしもおほしはなたしかしさはかりみところある御あはひともにておかしきさまなることのわつらはしきはたかならすいてきなんかしと思にたゝならすむねふたかる心ちすれとつれなくすくよかにて人にきかすましと侍つることをきこえさせんにいかゝ侍へきとけしきたてはちかくさふらふ人もすこししりそきつゝ御き丁のうしろなとにそはみあへりそらせうそこをつき　くしくとりつゝけてこまやかにきこえ給うへの御けしきのたゝならぬすちをさる御心し給へなとやうのすちなりいらへ給はんこともなくてたゝうちなけき給へるほとしのひやかにうつくしくいとなつかしきになをえしのふましく御ふくもこの月にはぬかせ給へきを日ついてなんよろしからさりける十三日にかはらへいてさせ給へきよしの給はせつなにかしも御ともにさふらふへくなん思給ふるときこえ給へはたくひ給はんもこと　くしきやうにや侍らんしのひやかにてこそよく侍らめとの給この御ふくなんとのくはしきさまを人にあまねくしらせしとおもむけ給へるけしきいとらうあり中将ももらさしとつゝませ給らむこそ心うけれ忍ひかたく思たまへらるゝかたみなれはぬきすて侍らむこともいと物うく侍ものをさてもあやしうもてはなれぬことのまた心えかたきにこそ侍れこの御あらはしころもの色なくはえこそ思給へわくましかりけれとの給へは何事もおもひわかぬ心にはましてともかくも思たまへたとられ侍らねとかゝるいろこそあやしくものあはれなるわさに侍けれとて例よりもしめりたる御けしきいとらうたけにおかしかゝるついてにとや思よりけむらにの花のいとおもしろきをもたまへりけるをみすのつまよりさし入てこれも御らんすへきゆへは有けりとてとみにもゆるさても給へれはうつたへに思よらてとり給御袖をひきうこかしたり

　おなしのゝ露にやつるゝふちはかまあはれはかけよかことはかりもみちのはてなるとかやいと心つきなくうたてなりぬれとみしらぬさまにやをらひきいりて

　たつぬるにはるけき野への露ならはうすむらさきやかことならましかやうにてきこゆるよりふかきゆへはいかゝとの給へはすこしうちわらひてあさきもふかきもおほしわくかたは侍なんと思給ふるまめやかにはいとかたしけなきすちを思しりなからえしつめ侍らぬ心中をいかてかしろしめさるへきなか　くおほしうとまんかわひしさにいみしくこめ侍を今はたおなしと思給へわひてなむ

頭の中将のけしきは御らむししりきや人のうへになんとおもひ侍けん身にてこそいとおこかましくかつは思給へしられけれ中　くかの君は思さましてつゐに御あたりはなるましきたのみにおもひなくさめたるけしきなとみ侍もいとうらやましくねたきにあはれとたにおほしをけよなとこまかにきこえしらせ給ことおほかれとかたはらいたけれはかかぬなりかむのきみやう　くひきいりつゝむつかしとおほしたれは心うき御けしきかなあやまちすましき心のほとはをのつから御らむししらるゝやうも侍らむ物をとてかゝるついてに今すこしもらさまほしけれとあやしくなやましくなむとていりはて給ぬれはいといたくうちなけきてたち給ぬなか　くにもうちいてゝけるかなとくちおしきにつけてもかの今すこし身にしみておほえし御けはひをかはかりのものこしにてもほのかに御こゑをたにいかならむつゐてにかきかむとやすからす思つゝ御まへにまいり給へれはいて給て御返なときこえ給この宮つかへをしふけにこそ思給へれみやなとのれんし給へる人にていと心ふかきあはれをつくしいひなやまし給ふになん心やしみ給らんとおもふにになん心くるしきされと大原野の行幸にうへをみたてまつり給てはいとめてたくおはしけりとおもひ給へりきわかき人はほのかにもみたてまつりてえしも宮つかへのすちもてはなれしさ思ひてなんこのこともかくものせしなとの給へはさても人さまはいつ方につけてかはたらひてものし給らむ中宮かくならひなきすちにておはしまし又こき殿やむことなくおほえことにてものし給へはいみしき御思ひありとも立ならひ給ことかたくこそ侍らめ宮はいとねんころにおほしたなるをわさとさるすちの御宮つかへにもあらぬ物からひきたかへたらむさまに御心をき給はむもさる御なからひにてはいと　くおしくなんきゝ給ふるとおとな　くしく申給かたしや我心ひとつなるひとのうへにもあらぬを大将さへ我をこそうらむなれすへてかゝることの心くるしさをみすくさてあやなき人のうらみをふかへりてはかる　くしきわさなりけりかのはゝ君のあはれにいひをきしことのわすれさりしかは心ほそき山さとになときゝしをかのおとゝはたきゝいれ給へくもあらすとうれへしにいとおしくてかくわたしはしめたるなりこゝにかくものめかすとてかのおとゝも人めかい給なめりとつき　くしくの給なす人からは宮の御人にていとよかるへしいまめかしくいとなまめきたるさましてさすかにかしこくあやまちすましくなとしてあはひはめやすからむさてまた宮つかへにもいとよくたらひたらんかしかたちよくらう

　くしきものゝおほやけ事なとにもおほめかしからすはか　くしくてうへのつねにねかはせ給御心にはたかふましなとの給けしきのみまほしけれはとしころ

かくてはくゝみきこえ給ける御心さしをひかさまにこそ人は申なれかのおとゝもさやうになむおもふけて大将のあなたさまのたよりにけしきはみたりけるにもいらへけるときこえ給へはうちわらひてかた　くいとにけなきことかな猶宮つかへをも御心ゆるしてかくなんとおほされんさまにそしたかふへき女は三にしたかふものにこそあなれとついてをたかへてをのか心にまかせんことはあるましきことなりとの給うち　くにもやむことなきこれかれ年ころをへてものし給へはえそのすちの人かすにはものし給はてすてかてらにかくゆつりつけおほそふの宮つかへのすちにらうせんとおほしをきつるいとかしこくかとあることなりとなんよろこひ申されけるとたしかに人のかたり申侍しなりといとうるはしきさまにかたり申給へはけにさはおもひ給らむかしとおほすにいとおしくていとまか　くしきすちにも思より給けるかないたりふかき御心ならひならむかし今をのつからいつ方につけてもあらはなる事ありなむ思ひくまなしやとわらひ給御けしきはけさやかなれと猶うたかひはをかるおとゝもさりやかく人のをしはかるあんにおつることもあらましかはいとくちおしくねちけたらましかのおとゝにいかてかく心きよきさまをしらせたてまつらむとおほすにそけに宮つかへのすちにてけさやかなるましくまきれたるおほえをかしこくも思より給けるかなとむくつけくおほさるかくて御ふくなとぬき給て月たゝは猶まいり給はむことゝいみあるへし十月はかりにとおほしの給をうちにも心もとなくきこしめしきこえ給人ゝはたれも　くいとくちおしくてこの御まいりのさきにと心よせのよすか　くにせめわひ給へとよしのゝたきをせかむよりもかたきことなれはいとわりなしとをの　くいらふ中将もなか　くなることをうちいてゝいかにおほすらむとくるしきまゝにかけりありきていとねんころにおほかたの御うしろみをおもひあつかひたるさまにてついせうしありき給たはやすくかるらかにうちいてゝはきこえかゝりたまはすめやすくもてしつめ給へりまことの御はらからの君たちはえよりこす宮つかへのほとの御うしろみをとをの　く心もとなくそ思ける頭の中将心をつくしわひしことはかきたえにたるをうちつけなりける御心かなと人ゝはおかしかるにとのゝ御つかひにておはしたりなをもていてす忍ひやかに御せうそこなともきこえかはし給けれは月のあかき夜かつらのかけにかくれてものし給へりみきゝいるへくもあらさりしをなこりなくみなみのみすのまへにすへたてまつる身つからきこえ給はんことはしも猶つゝましけれは宰相のきみしていらへきこえ給なにかしらをえらひてたてまつり給へるは人つてならぬ御せうそこにこそ侍らめかくものとをくてはいかゝきこえさすへから

む身つからこそかすにも侍らねとたえぬたとひも侍なるはいかにそやこたいの
事なれとたのもしくそ思給へけるとてものしとおもひたまへりけにとしころの
つもりもとりそへてきこえまほしけれとひころあやしくなやましく侍れはおき
あかりなともえし侍らてなむかくまてとかめ給も中　くうと　くしき心ちなむ
し侍けるといとまめたちてきこえいたし給へりなやましくおほさるらむみき丁
のもとをはゆるさせ給ましくやよし　くけにきこえさするも心ちなかりけりと
ておとゝの御せうそことも忍ひやかにきこえ給ようゐなと人にはおとり給はす
いとめやすしまいり給はむほとのあないくはしきさまもえきかぬをうち　くに
の給はむなんよからむなに事も人めにはゝかりてえまいりこすきこえぬことを
なむ中　くいふせくおほしたるなとかたりきこえ給ついてにいてやおこかまし
き事もえそきこえさせぬやいつ方につけてもあはれをは御覧しすくすへくやは
ありけるといよ　くうらめしさもそひ侍かなまつはこよひなとの御もてなしよ
きたおもてたつかたにめしいれてきむたちこそめさましくもおほしめさめしも
つかへなとやうの人ゝとたにうちかたらはゝやまたかゝるやうはあらしかしさ
ま　くにめつらしきよなりかしとうちかたふきつゝうらみつゝけたるもおかし
けれはかくなむときこゆけに人きゝをうちつけなるやうにやとはゝかり侍ほと
に年ころのむもれいたさをもあきらめ侍らぬはいと中　くなることおほくなむ
とたゝすくよかにきこえなし給にまはゆくてよろつおしこめたり

いもせ山ふかきみちをはたつねすてをたえのはしにふみまよひけるよとう
らむるも人やりならす

まとひけるみちをはしらすいもせ山たと　くしくそたれもふみゝしいつか
たのゆへとなむえおほしわかさめりしなにこともわりなきまておほかたのよを
はゝからせ給めれはえきこえさせ給はぬになむをのつからかくのみも侍らしと
きこゆるもさることなれはよしなかゐし侍らむもすさましきほとなりやう　く
らうつもりてこそはかことをもとてたち給月くまなくさしあかりてそらのけし
きもえむなるにいとあてやかにきよけなるかたちして御なをしのすかたこのま
しくはなやかにていとおかし宰相の中将のけはひ有さまにはえならひ給はねと
これもおかしかめるはいかてかゝる御なからひなりけむとわかき人ゝは例のさ
るましきことをもとりたてゝめてあへり大将はこの中将はおなし右のすけなれ
はつねによひとりつゝねんころにかたらひおとゝにも申させ給けり人からもい
とよくおほやけの御うしろみとなるへかめるしたかたなるをなとかいあらむと
おほしなからかのおとゝのかくし給へることをいかゝはきこえかへすへからん

さるやうあることにこそと心え給へるすちさへあれはまかせきこえ給へりこの大将は春宮の女御の御はらからにそおはしけるおとゝたちをゝきたてまつりてさしつきの御おほえいとやむことなき君也とし卅二三のほとにものし給きたのかたはむらさきのうへの御あねそかし式部卿の宮の御おおいきみよとしのほとみつよつかこのかみはことなるかたはにもあらぬを人からやいかゝおはしけむおうなとつけて心にもいれすいかてそむきなんとおもへりそのすちにより六条のおとゝは大将の御ことはにけなくいとおしからむとおほしたるなめりいろめかしくうちみたれたる所なきさまなからいみしくそ心をつくしありき給けるかのおとゝももてはなれてもおほしたらさなり女は宮つかへをものうけにおほいたなりとうち　くのけしきもさるくはしきたよりあれはもりきゝてたゝおほとのゝ御おもむけのことなるにこそはあなれまことのおやの御心たにたかはすはとこの弁の御もとにもせためたまふ九月にもなりぬはつしもむすほゝれえむなるあしたにれいのとり　くなる御うしろみとものひきそはみつゝもてまいる御ふみともをみ給こともなくてよみきこゆるはかりをきゝ給大将とのゝにはなをたのみこしもすきゆくそらのけしきこそ心つくしに

かすならはいとひもせまし長月に命をかくるほとそはかなきつきたゝはとあるさためをいとよくきゝ給なめり兵部卿の宮はいふかひなきよはきこえむかたなきを

あさ日さすひかりをみてもたまさゝのはわけの霜をけたすもあらなむおほしたにしらはなくさむかたもありぬへくなんとていとかしけたるしたおれのしもゝおとさすもてまいれる御つかひさへそうちあひたるや式部卿の宮の左兵衛督はとのゝうへの御はらからそかししたしくまいりなとし給君なれはをのつからいとよくものゝあないもきゝていみしくそ思ひわひけるいとおほくうらみつゝけて

わすれなむと思ふも物のかなしきをいかさまにしていかさまにせむかみのいろすみつきしめたるにほひもさま　くなるを人ゝもみなおほしたへぬへかめるこそさう　くしけれなといふ宮の御かへりをそいかゝおほすらむたゝいさゝかにて

心もてひかりにむかふあふひたにあさをく霜をゝのれやはけつとほのかなるをいとめつらしとみ給に身つからはあはれをしりぬへき御けしきにかけ給つれはつゆはかりなれといとうれしかりけりかやうになにとなけれとさま　くなる人ゝの御わひこともおほかり女の御心はへはこのきみをなんもとにすへきとおとゝたちさためきこえ給けりとや